

【表紙】

【提出書類】	臨時報告書
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成25年 7 月16日
【会社名】	株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション
【英訳名】	Village Vanguard CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 白 川 篤 典
【本店の所在の場所】	名古屋市名東区上社一丁目901番地
【電話番号】	052-769-1150（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 吉 岡 敏 夫
【最寄りの連絡場所】	名古屋市名東区上社一丁目901番地
【電話番号】	052-769-1150（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 吉 岡 敏 夫
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町 2 番 1 号）

1 【提出理由】

当社及び当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象が発生いたしましたので、金融商品取引法第24条の5第4項並びに企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号及び第19号の規定に基づき本臨時報告書を提出するものであります。

2 【報告内容】

(1) 当該事象の発生年月日

平成25年7月16日（当社取締役会決議日）

(2) 当該事象の内容

当社は、会計上の見積りの変更として、たな卸資産の評価基準を変更し、当該変更による影響額を特別損失に計上いたします。

当社は、お客様に楽しんでいただくため、今までになかった独創的なワン・アンド・オンリーの店舗の空間の創造を目指しており、商品の仕入・陳列・店舗の演出についても店長に権限を委譲しております。

この方針により、店舗が画一的ならず、個々の店長がそれぞれの空間を演出することで、商品は陳腐化することなく長期的に売れ続けると判断し、仕入後一定期間を超過した商品を営業循環過程から外れたものとして評価減を行ってきました。

しかしながら、現在、既存店売上高前年比が長期間低迷する中で、店舗空間の演出力が弱まってきており、商品力に頼った販売や仕入が増加傾向にあります。さらに、消費者の嗜好の多様化・変化の速度が速まっていることから、商品ライフサイクルの短縮化が進み、在庫の陳腐化リスクが高まりつつあります。特に、当連結会計年度においては、既存店売上高前年比が93.7%と、当社上場以来最も低く、その一方で、1店舗あたり在庫金額が最も増加する状況となったことで、在庫評価リスクが高くなってきております。

このような状況のなか、当連結会計年度において本部組織の見直しを行い、店舗業務の見直しや営業施策支援を行う営業企画部を新たに設置することで、店舗運営の支援機能の強化を図っております。また、平成26年5月期よりPOSシステムを稼働することで、従来よりも本部での店舗別の商品動向・販売状況の把握が可能となり、これらを分析し、必要な対策を講じる商品本部を新たに設置することで、より精緻な在庫管理を実施できる体制としました。

このような変化を受けて、たな卸資産に係る収益性の低下の事実をより適切に財政状態及び経営成績に反映させるため、たな卸資産の評価基準の見直しが必要な状況であると判断しました。

その結果、従来、「仕入から一定の年数を経過した場合に、100%帳簿価額を切り下げる方法」を採用していましたが、「過去の販売実績及び今後の販売予測を考慮し、段階的に簿価を切り下げていく方法」へ変更しております。

(3) 当該事象の損益および連結損益に与える影響額

平成25年5月期の個別決算において4,691,887千円、連結決算においても同額を特別損失に計上いたします。

以上